



新指定・登録の文化財

国指定重要無形民俗文化財 やっしるみょうけんさい 八代妙見祭の神幸行事 しんこうぎょうじ

所在地：熊本県八代市 保護団体：八代妙見祭保存振興会 指定日：平成23年3月9日

八代神社秋季大祭（妙見祭）の柱となるもので、八代神社と御旅所である塩屋八幡宮までの間の約6キロを神輿とそのお供をする多彩な出し物が練り歩く11月22日、23日の行事です。昨年、「阿蘇の農耕祭事」（阿蘇市）、「菊池の松囃子」（菊池市）に続く本県で3件目の国指定重要無形民俗文化財となりました。

古くは中世の神輿を中心とした神幸行事にさかのぼりますが、新しい領主として入国した細川三斎（忠興）が復興し、江戸時代後期になると城下町の裕福な町人、農民たちが参加して豪華さを競うようになり、多彩な出し物が登場する現在の形が整ったといわれています。

特に23日の「お上り」行列は、異国情緒あふれるドラやラッパの音にのって舞う獅子をはじめ、奴、木馬、鉄砲、毛槍、9基の楼閣型の笠鉦、巨大な亀蛇など39種類に上る出し物が1キロ以上も連なる壮大なものです。行列は、八代神社に到着した後、低崎河原と呼ばれる河原に向かい、亀蛇の演舞や飾馬の奉納などが勇壮に行われます。



亀蛇



傘鉦

「長崎諏訪神社のおくんち」、「博多宮崎宮の放生会」とともに「九州三大祭り」の一つに

数えられ、モデルとして獅子や亀蛇、奴などを妙見祭から取り入れた地域も宇城市、宇土市、氷川町など広い範囲にわたっています。

今回は、近世の城下町に発達した山車や屋台などが巡行する都市の祭りの典型的な例の一つで、九州南部を代表する大規模な祭りである点、亀蛇や楼閣型の笠鉦の巡行には地域的な特色が大きい点が評価されました。



獅子

登録有形文化財 ほんみょうじ に おうもん 本妙寺仁王門

所在地：熊本市花園4-128 登録日：平成23年7月25日

ほんみょうじ 本妙寺は、熊本城の北西にある日蓮宗の寺で、加藤清正をまつる浄池廟じょうちびょうがあることで知られています。仁王門に おうもんはその参道入口に立つ鉄筋コンクリート造の門で、大正9年(1920)、福岡県小倉の実業家で信者であった小林徳一郎が私財をなげうって建て、本妙寺に寄進したものです。鉄筋コンクリートの建物は関東大震災(大正13年)以降、全国に普及しますが、それ以前の鉄筋コンクリートの建物で現存するものは県内でも数少なく、当時の技術の高さを知ることができます。



型式は八脚門はつきゃく(8本柱の門)で、屋根の形などに日本の伝統様式を受け継ぎながらも、頭上に仁王像を置く点、西洋風のライオン像を置く点、むだな装飾を省いた簡潔な構造にするなど独創的なものに仕上がっています。今回は、熊本市街地の独特な景観を創り出している点、大正という時代を反映した自由な発想が見られ建築学的にも優れている点が評価されました。



登録有形文化財

京都大学理学研究科附属地球熱学研究施設火山研究センター
(旧京都帝国大学阿蘇火山研究所) 本館

所在地：阿蘇郡南阿蘇村河陽5280 登録日：平成24年2月23日

阿蘇の草原に立つ火山に関する研究や教育のための施設で、昭和4年(1929)に建てられた鉄筋コンクリート造の地上6階、地下1階のドイツ風の建物です。

設計者は、京都大学本部や同理学部附属地球物理学研究所(大分県別府市)など京都大学関係の多くの建物を手がけた永瀬狂三ながせきやうざうです。地震計・テレメーター受信室や気象観測室など20室を備える大規模な建物で、大自然に挑戦するかのよう(じしんけい)にそびえ立つ中央部の塔や傾いた外壁、異様に太い円柱、火山を表現したといわれる三角形の柱など幾何学的なデザインが随所ずいしょにみられます。ドイツにあるアインシュタインの相対性理論そうたいせいりろんを証明するための実験施設をモデルにしたといわれ、建築家の間では「九州のアインシュタイン塔」という愛称で呼ばれています。



装飾よりも機能美きののうびが重視される昭和初期のモダニズム建築の、熊本における代表作である点、また日本建築の流れを端的に物語っている点が評価されました。

重要文化財的景観 あまくさし さきつ 天草市崎津の漁村景観

所在地：天草市河浦町大字崎津 選定日：平成23年2月7日

タイやスズキ、イワシなど様々な種類の魚が水揚げされる天草市崎津が、国の重要文化財的景観に選定されました。熊本県内で重要文化財的景観に選定されるのは山都町に続いて2例目ですが、漁村の景観が選定されたのは全国で初めてです。

天草市崎津は、天草下島の南西部羊角湾の北岸に位置し、古くから外国船が出入するなど貿易港として栄えました。

現在、崎津浦西側の下町・中町・船津を歩くとよく見かけるものに「トウヤ」や「カケ」と呼ばれるものがあります。「トウヤ」とは、せまい平坦地に家々が密集することによって作られた浦へ出るための小路のことです。また、「カケ」とは、竹やシュロを使って海上に作られた構造物で、今でも漁船の碇泊や魚干しをする時の作業場として活躍しています。また、崎津浦東側の向江では畑作や稲作を営みながら、林産品や漁期の労働力を崎津へ提供しています。これら崎津浦周辺の地区では、それぞれが協力し合いながら崎津諏訪神社の例祭なども行なっています。

このように崎津浦を囲んで広がる「天草市崎津の漁村景観」は、崎津に住む人びとの日常生活の中から生まれたものです。「トウヤ」や「カケ」などを伴いながら形作られてきたこの地域独特の景観は次世代に伝えていくべき大切な宝物といえるでしょう。



天草市崎津今富地区航空写真



トウヤ



カケ

重要文化財的景観とは何？

「文化的景観」は、地域における人々の生活又は生業及び当該地域の風土により形成された景観地で我が国民の生活又は生業の理解のため欠くことのできないもの（文化財保護法第二条第1項第五号より）です。

その文化的景観の中でも特に重要なものが、都道府県又は市町村の申出に基づき、『重要文化財的景観』として選定されます。この重要文化財的景観の選定制度は、平成16年の文化財保護法の一部改正によって始まった、新しい文化財保護の手法です。

熊本市指定名勝及び天然記念物 ①「五老ヶ滝」②「聖滝」

所在地 ①上益城郡山都町長原・城原 ②上益城郡山都町野尻・城原

指定年月日 平成23年4月22日

五老ヶ滝は緑川の支流である五老ヶ滝川に、聖滝は同じく笹原川に懸かる大きな滝です。二つの滝は、江戸時代に著された『肥後國誌』等の地誌や、肥後領内の名所を相撲番付になぞらえて記した『名所名物数望附』にその名を見ることができます。かつてこの地を訪れた朝廷の使いが滝を「ごろうじた（御覧になった）」ことから「五老ヶ滝」の名が、滝の途中に突き出た岩が修行中の僧侶のように見えることから「聖滝」の名が付けられたと伝えられています。また、江戸時代、熊本藩主細川齊茲が御抱絵師に領内の名勝地を描かせた『領内名勝図巻』という長大な絵巻物に、二つの滝はともに圧倒的な迫力を持つ滝として描かれています。

一方、二つの滝が懸かっている岩盤は、阿蘇火山が起源の溶結凝灰岩でできています。滝の周辺では、二つの滝を形成した地質学的な特徴や地質上の遷り変わりを理解することができます。

このように二つの滝は、江戸時代には熊本を代表する名勝地として広く知られており、『領内名勝図巻』が描かれた200年ほど前の景観を見事に残しています。また、阿蘇火山の噴火活動に起因する溶結凝灰岩とその後の浸食作用により生み出された滝及び周辺の地形は、本県における地質学的特徴をよく示しています。

以上のことから、県の名勝及び天然記念物に指定されました。



五老ヶ滝



聖滝

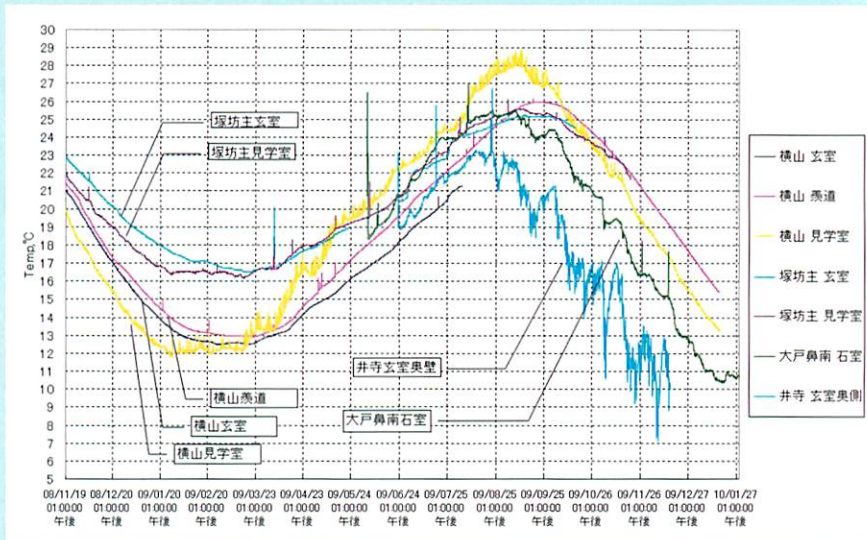
装飾古墳の保存と公開 (装飾古墳の一斉公開)

熊本県立装飾古墳館では、装飾古墳の保存と公開を両立させるために様々な調査を行っています。その成果のひとつが、菊池川流域における装飾古墳一斉公開です。

装飾古墳に用いられる顔料は何れも粘土系のもので、凝灰岩などの多孔質の軟岩に染み込んだように付着しています。従って、急激かつ過度な温湿度変化は、顔料の剥落やカビの発生を促す切っ掛けに繋がります。そのため、石室は保存施設内で管理されています。

一斉公開に供している古墳は、これまでの調査結果（石室内の温湿度変化や石材表面の変化など）を踏まえ、10月下旬頃を公開時期と定めています。3回目となる平成23年には、10月21、22日の二日間に開催し、延べ2000人の参加がありました。

今後も引き続き県内各地の装飾古墳について調査を行い、保存と公開の拡大を図っていきたく考えています。



【お問い合わせ】 熊本県立装飾古墳館 TEL 0968(36)2151
装飾古墳館ホームページ <http://www.kofunkan.pref.kumamoto.jp>

史跡鞠智城跡の取組を紹介します



鞠智城跡は山鹿市と菊池市にかけて所在する、古代山城の一つとして国史跡に指定されています。昭和42年から始められた発掘調査は32次を数え、これまでに貴重な遺構や「百済系菩薩立像」などの重要な遺物が発見され、「温故創生館」で展示・解説しています。

平成23年10月7、8日には山鹿市・菊池市主催の古代山城サミットが開催されました。7日には大宰府から鞠智城までを烽火でつなぐ「烽火リレー」を行い、8日には「古代山城の保存と活用を目指して」というテーマでシンポジウムを開催しました。また、九州国立博物館に鞠智城ブースを出展し、鞠智城の周知に努めました。このほか、「さきもりころう隊」が結成され、ころう君が各地で鞠智城をPRしています。

【お問い合わせ】 熊本県立装飾古墳館分館 歴史公園鞠智城・温故創生館

〒861-0425 熊本県山鹿市菊鹿町米原443-1 TEL 0968(48)3178

鞠智城温故創生館ホームページ <http://www.kofunkan.pref.kumamoto.jp/kikuchijo/>

さきもりころう隊オフィシャルサイト <http://cyber.pref.kumamoto.jp/korou-tai/>

発掘！調査現場から

縄文時代狩の道具を製作か？ ～平町遺跡～

原植木線緊急道路整備事業にともなって調査を行いました。今回は平成23年度として4月から7月まで主に縄文時代の遺跡調査を行いました。

調査では縄文時代後期・晩期の遺物を発見しました。縄文時代後期の遺物としては、磨消縄文土器（縄目模様をすり消した土器）、黒色磨研土器（表面を黒くして磨いた土器）などが出土し、縄文時代晩期の遺物としては刻目突帯文土器などが出土しました。

石器も出土し、石鏃、石斧、石匙などの石器の他黒曜石を多く出土しています。黒曜石片が多く出土していることから、狩りのための道具を作ったであろう住居が近くにあったことを物語っています。



出土した石器

お墓の中から出てきたもの ～飛田遺跡群～

熊本市四方寄町にある飛田遺跡群からは、古墳時代に造られた6つのお墓が見つかりました。大きさとしては学校のプールより大きめのお墓や円い形をしたお墓だったり形やサイズがそれぞれちがっていました。

6つのお墓のうちの5つは畑や道路を造るときにすでにこわされて、お墓の周りの溝だけが残っていましたが、円い形をしたお墓は石でできた棺（死んだ人を入れる箱のようなもの）がそのまま残っていました。

棺を開けてみると男2人、女1人分の頭や体の骨がありました。骨の周りには、まが玉1個・小さな円い玉5個が出てきました。



石の棺と中の人骨

文字のある考古学 ～桑鶴遺跡群～

桑鶴遺跡群は砂原四方寄線地域連携推進改築事業に伴う文化財調査として平成21年度より開始し、旧石器時代から中世までの複合遺跡で今年度は8世紀頃を中心とした調査を行いました。

今回紹介するのは出土した文字のある土器です。

土師器（うす茶色をした素焼き土器）という土器に「原」とへら書きされていました。「原」は平原も意味します。この桑鶴遺跡群は見渡すと平原で、まさに「原」と呼べる立地条件です。この人々がよい場所で生活を営んだのでしょう。

小さな遺物ですが、桑鶴遺跡群の性格を知る上で貴重なモノです。



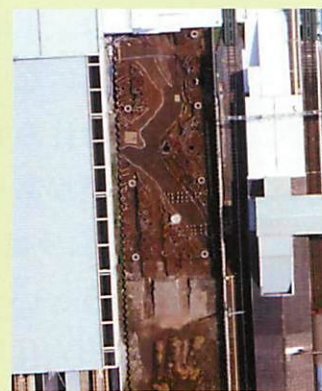
へら書き土師器

重なり合った大溝群を発見 ～二本木遺跡群春日地区第15次調査～

JR九州上り線付替工事に伴い熊本駅構内の発掘調査(面積約600㎡)を行った結果、古代の初めと中世末～近世初頭の人々の生活痕跡や使用した品物を確認しました。

興味深い発見として、幅4～6m、深さ1～1.5m以上、長さ20m以上の大溝が3条重なり合って確認されたことが挙げられます。大溝の底にあった焼き物や放射性炭素年代の結果から室町時代の終わりから江戸時代の初めころ(16世紀後半～17世紀初め)に埋まり始めたと推定されます。

これらの溝が掘られた理由については、はっきりしませんが、周辺の調査区で確認された大溝では、字境に位置していることや、溝の底に砂利が敷かれ両側に側溝があることから「小字の区画」や「道路」としての役割などが考えられます。



大溝の様子

よみがえる古代人 ～新屋敷遺跡～

新屋敷では、白川河川改修工事のために平成18年度から発掘調査を行ってきました。

この遺跡は主に、縄文時代後晩期・古代(奈良・平安時代)・近世(江戸後期以降)の住居跡や溝などの遺構や土師器や須恵器などの遺物が数多く出土しています。

今回、全身で2体、半身で3体の人骨が発見されました。これらの人

骨は、頭の向きもバラバラで供えられた品もほとん

どない状態で発見されました。周辺に点在する土器や人骨の状況から8世紀から9世紀の身分的に低い人物である可能性があります。

発見された場所は、溝として使われていたところが埋まってくぼ地でした。埋葬するには不自然な場所です。一体どうしてこんな場所に数体の人骨があったのでしょうか。また、どんな人物だったのでしょうか。

今後調査を進めていくことで少しずつ明らかになると思います。



人骨の出土した様子



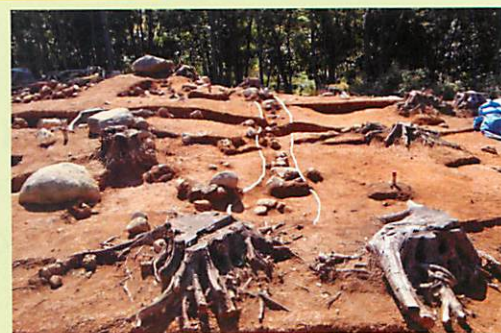
調査地の全景

屋根から落ちる雨水が流れる溝を発見 ～池辺寺関連遺跡～

池辺寺関連遺跡は熊本市池上町、独鈷山の北側に位置しています。今年度は、昨年度から引き続いての区域と新しく二つの区域を調査しました。

一番の成果としては、屋根から落ちる雨水を処理する溝が発見されたことです。これまでにお寺のあった跡(基壇)が発見されていました。

今年度は、そこにあったお寺の屋根を伝わって軒下へ流れ落ちる雨水を処理する雨落溝ではないかと考えられる溝が発見されました。基壇の西側と東側にそれぞれあり、溝の中にはきれいに石も並べられています。この溝を眺めていると、中世の時代のお寺の建物が目に浮かび、雨水が溝を流れる音が聞こえてくるようです。



雨落溝の跡

弥生時代の2つのムラ ～幅・津留遺跡～

幅・津留遺跡は、主に弥生時代の出土品や建物のあとが発見される遺跡です。集落は、周囲に溝をめぐらす環濠集落になっており、住み始めた時期が異なる2つのムラからできています。

西にあるムラは住み始めたのが古く、主に石の道具を用いるのに対し、東にあるムラは鉄の道具を用いるという特徴があります。

その他、東のムラは儀式の際、赤い絵の具を使うという特徴があります。お墓や竪穴住居には赤いベンガラをまいてありドキッとするときがあるくらいです。



鉄でできた矢じり

中国由来の小刀
素環頭刀子

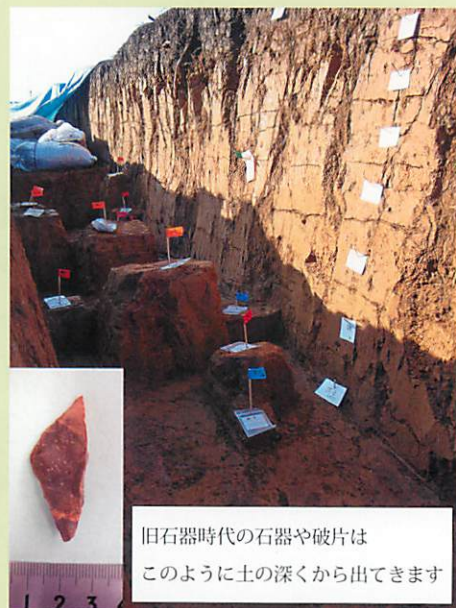
鉄でできた斧

旧石器時代人の工房 ～北中島西原遺跡～

上益城郡山都町にある北中島西原遺跡は、標高 520 m の丘陵地に位置しています。

今年度の調査では、旧石器時代の後期にあたる約 2 万年前の石器が見つかりました。旧石器時代後期の代表的な石器であるナイフ形石器がその一つです。他にも、石器を作るときにでる破片がまとまっている場所もいくつか見つけることができました。当時の人々が、そこで石器を作ろうとしていたのでしょう。

この遺跡では、縄文時代、弥生時代の遺物（土器や石器）や遺構（穴や住居跡）も見つかっています。調査は今後も続きますので、新たな発見があるかもしれません。

旧石器時代の石器や破片は
このように土の深くから出てきます

遺物の出土している様子

縄文時代人の住居跡発見 ～福堂遺跡～

福堂遺跡は、球磨郡錦町にある遺跡で、県道錦湯前線（一武バイパス）事業のため平成 23 年 9 月から発掘調査を行っています。調査面積は、約 1400㎡で、縄文時代晩期（今から約 3000 年前）・奈良・平安時代（今から約 1200 年～ 1000 年前）の遺物や遺構が確認されました。

縄文時代晩期の主な遺物として石おのなどの磨製石器、石のやじりなどの打製石器、土器、管玉などの装飾品、土偶（土製の人形）などが出土しました。中でも、土偶は右足と頭部が欠けていますが、ほぼ一体分出土し、お祭り（祭祀）などに使われたであろうと考えています。

主な遺構は、縄文時代の竪穴住居が 4 軒、奈良・平安時代の住居が 3 軒検出されています。また、土の中にそのままの形で埋められた縄文時代の甕形土器が 20 基見つかりました。



土器や石器の出土している様子

夏休み遺跡発掘体験・見学会

今日はあなたも古代人！



身近なところで発掘調査が行われ、日々新しい発見があります。夏休みを利用して児童生徒のみなさんに、地域の歴史を学び、本物の土器や石器にふれる感動を味わっていただこうと遺跡発掘体験・見学会を実施しました。

本年度は6現場で総数370名ほどの参加をいただきました。「土器がでてきたときがとってもうれしかったです。」「発掘体験をもっとしたかった。」などの感想が寄せられました。

平成23年度「くまもと教育の日」関連企画

きてみてわかった！現場公開



「くまもと教育の日」関連事業として、発掘調査中の遺跡発掘現場を広く公開しています。発掘調査現場の生の雰囲気に触れていただける事業です。

本年度は5現場で行いました。多くの児童生徒の皆さんに参加していただきました。「現場の説明は言葉が分りやすくよかった。」「毎年参加していますが、年々違う発見があります。また来たいです。」などの感想が寄せられ好評でした。

熊本県文化財資料室紹介

熊本県文化財資料室は、平成20年にこれまで熊本市内各所に分散していた収蔵庫を集め、現在の所在地(熊本市城南町沈目 1667 番地)に移転しました。

ここ資料室では、県で行った埋蔵文化財の発掘調査に関わる出土遺物の整理・収蔵・管理を行っています。

【業務内容】

- (1) 資料の維持管理・活用に関すること
 - ・収蔵資料及び調査資料の管理・貸出
 - ・出土品の保存処理・修理
 - ・調査報告書等の登録・管理・閲覧・貸出
- (2) 教育普及に関すること
 - ・「文化財通信くまもと」の編集・発行
 - ・文化財資料室の一般公開・文化財普及活動
 - ・小・中学校の校外学習やナイスライの受入れ
 - ・「考古資料学習キット」の貸出など



交通手段

◎公共機関

JR 熊本駅前→市電からしまちよう→辛島町(交通センター前)下車

所要約 15 分

阿蘇くまもと空港→リムジンバス→交通センター行

所要約 50 分

○熊本交通センター(A-4番乗場)から

方法① 熊本バス南23路線、甲佐・白石野行き

所要約 40 分

「グラウンド入口」(B&G海洋センター前)下車。

徒歩約 10 分

方法② 熊本バス南17-20路線、松橋・宇土・段鶴行き

所要約 40 分

「城南」下車。タクシー 10～15 分。

◎自動車利用

九州自動車道 御船 I.C →熊本方面<445号>→宇土方面<50号>に直進。

「上仲間」交差点左折→城南・宇城方面→<266号>を 3.6km 直進



文化財資料室位置図



住所 熊本県熊本市城南町沈目 1667 番地

電話 0964-28-4933 FAX 0964-28-7798

E-mail: shiryoushitsu@pref.kumamoto.lg.jp

熊本県文化財資料室に展示体験学習棟完成

熊本県文化財資料室に本年度、^{てんじたいけんがくしゅうどう}展示体験学習棟を新しく建てました。

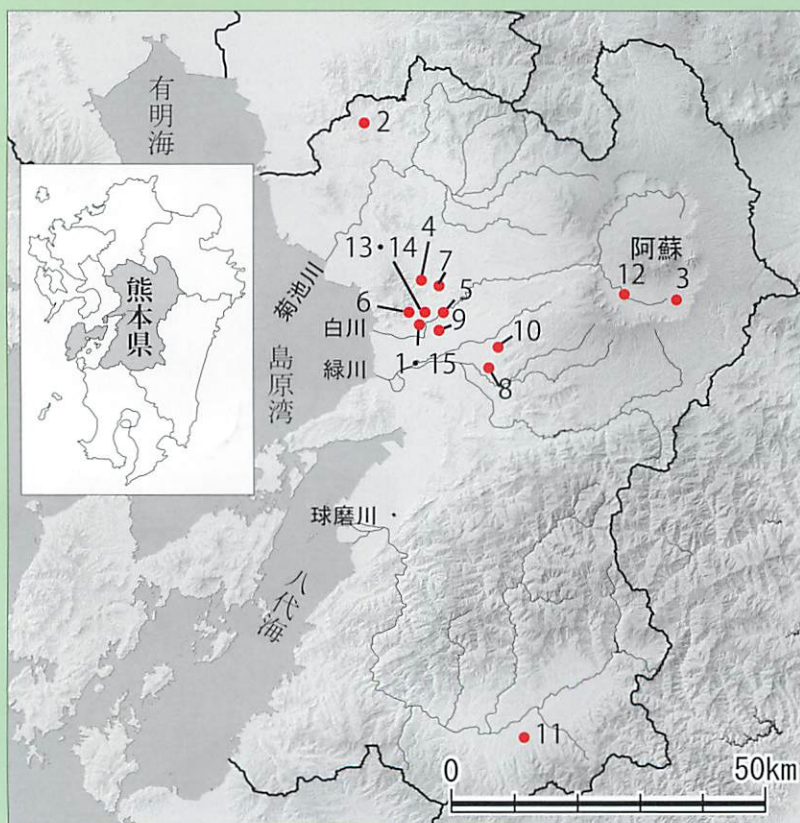
本年度は「くまもと教育の日」に合せ、展示室では11月14日（月）から12月18日（日）まで、『有明海をめぐる古墳時代の交流展』をテーマに企画展を開催しました。企画展では菊池川の支流に位置する「北の崎遺跡」と「^{いなさつる}稲佐津留遺跡」の二箇所の遺跡を取り上げ、弥生時代の終わり頃から古墳時代前半期にかけての出土品中に、伝統的な在^{ざいち}地土器の中に畿内系の土器群や山陰系の土器群などが出土しました。そして古墳時代中期以降になると日本列島全体が畿内系土器一色の世界に変わってしまいます。このことは、畿内に発生した大和地方の一豪族、後に大和朝廷と呼ばれる一大勢力が、次第に拡大をつづけ、全国を統一する過程を示す現象の一つと考えることもできます。

また、期間中の11月26日と12月10日の2日間に渡り古代体験教室「土器を作ろう」を開催しました。多くの子どもたちや保護者の方たちの参加を得て、粘土による土器作りと野焼きを体験してもらいました。子どもたちが作ったさまざまな土器のアイデアには驚くばかりのものでした。



平成 23 年度 県文化課発掘調査遺跡一覧

調査番号	遺跡名	所在地	主な時代	主な遺構・遺物	調査期間
1	二本木遺跡群	熊本市春日町	古代～近世	掘立柱建物、区画溝、墓、土師器・須恵器・陶磁器・	H23.4～H23.9
2	平町遺跡	菊池市泗水	古代～近世	土坑、溝	H23.4～H23.7
3	幅・津留遺跡	阿蘇郡高森町	弥生	竪穴住居、倉庫跡、区画溝、墓、標柱石・弥生土器、鉄鏃、鉄斧など多数	H23.4.11～H24.2.29
4	桑鶴遺跡群	熊本市和泉町	旧石器・古代・中世	ナイフ型石器・カマド付竪穴住居・掘立柱建物	H23.4～H23.10
5	新屋敷遺跡	熊本市新屋敷	弥生・	墓・溝	H23.5～H23.3
6	池辺寺関連遺跡	熊本市池上町	旧石器、縄文、中世（平安、鎌倉）	基壇、階段、掘立柱建物群、陶磁器、土師器、須恵器、土器、石鏃	H23.5.～H23.10.31
7	飛田遺跡群	熊本市四方寄町	古代・中世	竪穴建物、土坑、道路状遺構 土師器、須恵器	H23.5～H23.3
8	北中島西原遺跡	山都町北中島	旧石器・縄文・弥生	竪穴住居跡、土坑 旧石器・縄文土器、弥生土器・鏡	H23.5～H23.3
9	神水遺跡	熊本市水前寺	古代・中世	土坑、溝、土師器・須恵器	H23.5～H23.7
10	滝川石田遺跡	御船町滝川	古墳	竪穴住居跡、溝跡、ピット、土師器、須恵器、鉄器等	H23.7.27～H24.2.29
11	福堂遺跡	錦町一武	縄文	住居跡、埋め甕、土器、土偶、管玉	H23.9～H24.1
12	久石陣林遺跡	南阿蘇村久石	弥生	弥生土器	H23.11.28～H24.2.29
13	新馬借遺跡A	熊本市新町	近世	門跡	H23.12～H24.2
14	新馬借遺跡B	熊本市新町	古墳	沼、包含層	H23.12～H24.2
15	二本木遺跡	熊本市田崎町	弥生・古代		H24.2～



遺跡位置図

考古資料学習セット

県文化課では、小・中学校の歴史学習の補助教材として、県内遺跡出土の主要な土器や石器を詰め合わせた『考古資料学習キット』を製作し、貸出しをしています。

本物の遺物を直接手でふれ、原始・古代の人々の知恵や工夫の跡を確かめて欲しいと思います。

【問い合わせ】

熊本県教育庁文化課調査係 096-333-2706 (2707)

熊本県文化財資料室 0964-28-4933

考古資料学習キット



文化財通信くまもと第 30 号 平成 24 年 3 月 31 日

発行：熊本県教育委員会文化課 TEL 096(333)2704 FAX 096(384)7220

編集：熊本県文化財資料室 TEL 0964(28)4933 FAX 0964(28)7798

印刷：有限会社 ソーゴグラフィックス

発行者：熊本県

所属：教育庁文化課

発行年度：平成 23 年度